

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 26 年度後期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	田中 勇希	会員番号	0032518
申請者の 所属・職名	筑波大学医学医療系内科・博士 3 年		
出席会議名	American college of rheumatology		
発表論文 タイトル	Specific overexpression of FPR2 (FPRL-1) on Th1 cells in GPI-induced arthritis and patients with rheumatoid arthritis		

実施結果:

この度は Tadamitsu Kishimoto International Travel Award を賜り誠にありがとうございました。

私は 2014 年 11 月 14 日から 11 月 19 日までアメリカのボストンで開催されました American college of rheumatology (ACR) に参加しました。ACR では関節リウマチだけでなくシェーグレン症候群、全身性エリテマトーデスなどの自己免疫疾患に関連した研究発表が行われております。プログラムですが臨床研究はもとより基礎研究の演題が非常に豊富な学会であることが特徴であり、自己免疫疾患研究の最前線やこれから日本で流行りそうな研究を目の当たりにすることが出来ます。大きなトピックとして腸内細菌と自己免疫疾患が紹介されておりました。近年、様々な解析により腸内の常在細菌が免疫系の調節に深く関わることを示唆されており、自己免疫疾患との関与も考えられています。今回 ACR では 2 日間に渡り大きなセッションが生まれ多くの研究者が参加していました。内容は健常人と様々な自己免疫疾患患者における腸内細菌の多様性や分布などの解析が中心でしたが、今後はそれらの常在細菌が病態にどのように影響を及ぼすかの解明が期待されます。

現在我々はヒトの関節リウマチ同様、病態の発症に T 細胞が重要である GPI 誘導関節炎モデルマウスを用いて、T 細胞に高発現する分子を同定、機能解析を行い関節リウマチの新規治療ターゲットを見出すことを目標としております。今回私は ACR で、同定された高発現分子 Formyl peptide receptor 2 (FPR2) が数ある T 細胞サブセットの中でも Th1 で高発現を認めること、さらにヒト末梢血単核球 (PBMC) から単離した CD4⁺T 細胞では健常人と比較して RA 患者で FPR2 の発現が高いという内容でポスター発表を行いました。

我々の現在までの研究結果はまだ現象論に過ぎません。しかし有り難いことに、わざわざ私のポスターを見に来てくれた研究者も何人かおり非常に有意義なディスカッションを行うとともに今後の研究に対するモチベーションを大きく向上させることが出来ました。

最後に、このような貴重な機会を与えて下さった岸本忠三先生をはじめ、ご選考いただいた日本免疫学会の先生方に厚く御礼申し上げます。